

令和5年度 中央区立常盤小学校 外部評価報告書

外部評価委員：海老原 裕・田中 二郎・佐久間 一郎・駕尾 明・小林 景子・橋元 実希子
報告書作成者：石井卓之

評価時期 令和 6年 3月

1 重点目標の評価

重点目標1 「確かな学力の向上」について

・「授業改善」「基礎・基本の徹底」に関する教員による肯定的評価は100%となっている。また、保護者・地域の肯定的評価はそれぞれ77%、80%であり、概ね達成できた。しかし、学校評価（自己評価）の評価指標としている「学力調査の結果」はA評価、「東京ベーシック・ドリルの正答率90%以上」はC評価であることを考えると、学校の自己評価が100%となっている理由を明確にする必要性を感じる。

重点目標2 「国際教育の充実」について

・保護者・地域の「英語授業の実践」「日本の歴史や伝統文化（特に日本橋）の学習の充実」「国際交流の実践」における肯定的評価はそれぞれ、83%、92%、74%であり、教員の肯定的評価は全て100%である。また、評価指標の「児童が英語を使った他者との関わりができた」「歴史や伝統文化の理解が深まった」「外国と日本との違いについて理解を深められた」がそれぞれA、A、Bであることから概ね達成できた。

・研究2年目となる次年度は「英語授業を実践している」から内容面に関わる目標を設定し、学びの質が高まったことを評価できるようにすることを期待する。

重点目標3 「豊かな体づくり」について

・保護者・地域の「挨拶の定着」「体力の向上」「他者を思いやる心の育成」における肯定的評価はそれぞれ、87%、68%、86%であり、教員の肯定的評価は全て100%である。また、評価指標の「他者の尊重」「目標タイムや進級」がそれぞれA、Bであることから概ね達成できた。

・学校は、保護者・地域の評価が68%となった理由を「実際の取り組みがアンケート実施後に行われたから」と考察している。70%に達していない現状を重視し、再度、理由についてのアンケート等を行い、要因を明確にした上で改善策を立案する必要がある。

2 今後の改善に向けた意見

・学校評価（自己評価）の評価指標として、「ICTを使った学習が好きという肯定的評価を90%以上にする」など、可能な限りの数値目標を設定していることは評価できる。一方、保護者・地域向けアンケート、学校自己評価では、ICTに関わる質問項目が設定されておらず、重点目標内の質問項目の関係性が明確となっていない。重点目標の評価項目と質問の関連性を明確にした上で、何を学校で評価し、保護者・地域には何を評価してもらうのか、次年度は再考してほしい。

・学校の自己評価における肯定的評価が重点目標の全てで100%となっている。一般的にはあまり見られない傾向である。常盤小学校の児童が素晴らしいから、教師の評価規準に課題があるから、4検法の評語に課題があるからなど、要因を明確にしておかないと改善策を立案しにくくなると考える。

3 その他の意見

・国際教育のパイロット校として英語への取り組みと学んだ英語を使ってコミュニケーションを図る活動を進めていることは、今後他校の参考となるよい事例である。また、地域の企業を活かした教育活動は、キャリア教育の観点からも更に推進してほしい。